

昨年度実施の防災研修

弁華別中学校の宿泊学習で、航空自衛隊第45警戒群の協力により、生徒たちが防災についての知識を学びました。

# 減災 地域を知って備えよう

9月1日は防災の日、8月30日から9月5日までは防災週間です。

国内外を問わず、毎年のように地震や台風など大きな自然災害が発生しています。当別町は、洪水と治水の歴史が続き、近年でも、台風や豪雨などによる被害が発生しています。また、当別断層の存在により、地震による災害も決して他人ごとではありません。

いざという時の備えは大変重要です。わたしたちは、天災を予知し、防ぐことは出来ませんが、心がけや備えにより「減災」することはできます。

自助・共助・公助それぞれの役割分担の中で、いざという時に効果的な組織体制と活動ができるよう実効性を高めていくことが大切です。日頃から、自分たちが出来ること、みんなが出来ることを話し合い、いざという時に備えましょう。

## 地域に合った体制づくりをしよう

防災は、地域で自主防災組織を結成して活動を行うことが大切です。8月20日現在、町内全44町内会のうち32町内会、73%の地域で自主防災組織が結成されています。

災害時には、自分たちの住んでいる地域の地形、道路、河川、病院、商店、避難場所、要援護者等の状況を把握していることがとても大切になります。

自分の住んでいるところは、高いところか、低いところか、近くに河川や水路はあるか。病院や商店の位置。緊急車両が通行できる道路幅があるか。危ない建物やブロック塀などがあるか。

それらの情報を一括して、各地域の地図上に記載してみることで、危険の場からの退避や、災害時の要援護者の安否確認を速やかに行うことが出来ます。

これらをもとに、地震、水害、台風など、災害毎で異なる防災訓練を行うことが万が一の災害への備えになります。



## 日頃から備えよう

大災害の発生時には、ほんの少しの違いが生死を分けることになる場合があります。あなたは大丈夫ですか？

### □日頃から家族で災害時の対応を話し合っておく

家族の役割分担や集合場所を決める。はぐれた時の落ち合う場所を決める。

### □住宅の耐震化と家具等の転倒防止対策

家具類を壁にしっかり固定するなどの転倒防止対策を行う。寝室、居間、乳幼児のいる部屋にはできるだけ家具は置かない。  
※国土交通省住宅局監修「誰でもできるわが家の耐震診断」又は「当別町防災マップ(建物編)」参照

### □非常持ち出し品と非常食の準備

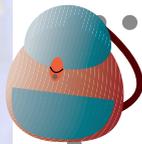
日頃から非常持ち出し品や非常食の準備をしておく。家族分3日程度を用意し、点検・入れ替えを行う。

### □災害時の連絡方法、避難経路、避難場所の確認

災害時の避難路、避難場所を確認しておく。家族などへの連絡方法について確認しておく。

### □当別町防災マップの活用

平成18年9月に配布した「当別町防災マップ」、平成19年1月に配布した「当別町防災マップ(建物編)」を参照し、日頃からもしもの時に備える。



## 非常持ち出し品と非常食を準備する

- 災害が発生した場合、ただちに避難しなければならないことがあります。そんなときに備えて、非常持ち出し品を準備しておきましょう。また、非常食については家族の3日分程度を目安に準備しましょう。チェックを入れてみてください。
- □通帳 □各種証明書 □印鑑 □現金 □救急薬品 □常備薬
- □衣類(下着、上着、靴下、ハンカチ、タオルなど) □ヘルメット
- □生活用品(ライター、ナイフ、軍手、缶きり、ビニールシート、寝袋など)
- □携帯ラジオ(予備電池) □照明(懐中電灯やろうそく)
- □非常食(水、カンパン、缶詰、カップめん、粉ミルク、お湯や水を加えると食べることが出来るアルファ米など)



## 自分たちが出来る防災訓練

非常時に対応するための知識、情報を身につけるために、町内会、サークルなどで行っている研修の事例を紹介します。

- 初期消火(水消火器、三角バケツを使用)
- 応急処置(止血、骨折などの手当について)
- 普通救命(心肺蘇生法やAEDの使用について)
- 炊き出し(数百食もの食料を実際に作る)
- ビデオ学習(自主防災組織学習DVDなどを視聴)
- DIG(災害図上訓練)を、地域の地図を使用して、各種災害を想定した訓練を行う。





## 地域での取り組みは？

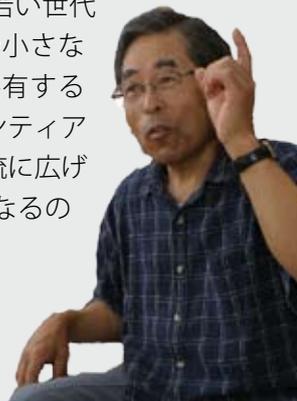
今年、北栄町町内会の防災研修や防犯パトロールの活動が高く評価され、消防庁の事業である、地域安心安全ステーション整備モデル事業が実施されました。これは、災害の発生時に、最も迅速に動くことが出来る自主防災組織や各種コミュニティ組織に防災資機材を配備するものです。

当別町では、昨年の太美地区の町内会に続き2箇所目の事業実施であり、町内会では、防災用テント、折りたたみ担架などの防災資機材を購入し、今後の防災活動に役立てる予定です。

今年の町内会の運動会では、消火リレー、レスキュー隊リレーといった競技種目や、AEDの使用説明、昼食を炊き出しで行うといったように防災を意識した内容の計画を立てています。防災意識を高めるには、学習会の開催なども大切ですが、町内会の人々が沢山集まる機会に、幅広く防災について興味を持ってもらおうと、町内会の中でアイデアが出されました。

万が一の災害発生時に迅速に対応するためには、対応マニュアル以上に、日頃から地域の中でいかにコミュニケーションが取れているかが重要な事だと思います。もし、日中に災害が発生した場合には通勤、通学している若い世代が地域にはいません。どこに高齢者や小さな子どもが住んでいるといった情報を共有するためにも、老人クラブ、育成会、ボランティア団体といった輪を、幅広い世代間の交流に広げて行くことが、今後はますます大切になるのではないのでしょうか。

北栄町町内会  
会長 浦部 憲生さん



## 町の取り組みは？

現在、地域防災計画や水防計画の見直し作業を行っている他、当別町防災マップ、防災訓練事例集などを作成し、防災知識の普及を行っています。

災害時の連絡体制の強化や民間業者との物資等の支援協定により、町が実際に食料等を備蓄せず、民間業者各店舗の在庫品を災害時に支援を受ける流通備蓄の強化を行ってきました。

また、航空自衛隊や当別消防署の協力で、弁華別中学校が実施する宿泊体験学習の場で、自分たちの住んでいる地域を知り、地域の人たちとの交流やふれあいを通じ防災学習に取り組んでいます。

このほかにも、防災に関わる専門の講師や活動団体の代表者を招き、町内会などでの防災研修、ビデオ学習、講演の開催を通じて、地域の事情に合わせた防災研修や訓練の支援を行い、地域の防災力を高めるため取り組んでいます。



## 災害図上訓練の実践と 防災サポートを学ぶ



札幌市白石区北郷親  
米第一町内会  
会長 田畑 隆二さん

平成 20 年度当別町防災セミナーでは、札幌市から白石区北郷親米第一町内会長の田畑隆二さん、北白石まちづくりセンター所長の山根直樹さんの両名を講師に迎え、地域防災力向上を図るために行っている町内会や地域の取り組み、札幌市が定めている災害時の要援護者支援ガイドラインについて講演がありました。

田畑講師からは、災害図上訓練 (DIG) 研修を、災害発生時の取り組みはもちろんとして、その他にも、除排雪時の安全確認、ゴミステーションへの掲示板設置による地域への情報発信、子どもたちの登下校時に合わせたパトロールの実施といった取り組みに応用している事例紹介を通じ「安全・安心づくりのために始めた取り組みが、現在、地域活性化の切り口に役立っている。自分たちが出来ることから始めることで、あまり重荷にならず、良い地域づくりが出来るのではないかと思います。」とまちづくりの取り組みに関するアドバイスがありました。札幌市の中でも先例地であるまちの報告に約 120 名の参加者は熱心に聞き入っていました。

(8月21日 ゆとろ)



札幌市白石区市民部  
北白石まちづくりセンター  
所長 山根 直樹さん

### 防災担当からひとこと

**災**害というのは、「忘れた頃にやってくる」と昔は言っていましたが、現在は「いつ起きてもおかしくない」というのが現状です。

当別では、昭和 56 年の洪水による被害が記憶に残っていると思います。その後、下水道の整備により市街地での水害は減って来ましたが、市街地以外では、大雨による洪水や土砂災害、冠水による農作物への大きな被害などが現在も報告されています。

災害が発生した際など、いざという時の食料等の確保について町では流通備蓄という方法で対応をしています。北海道や道内市町村との協力協定をはじめ、町内の食料取扱店、コンビニ、スーパー、燃料取扱店、建設業組合、重機会社、運送会社、医薬品取扱店などと物資等の支援協定を結び、緊急時の対応を行います。

町民のみなさんは、第一に自分の命を守ること、「自助」を優先に、家具の転倒防止や家の耐震化を行い、3日分程度の食料の備えをお願いします。また、町内会などでは自主防災組織を中心に食料・防災資機材の備蓄をはじめ、災害時要援護者の対策や避難所の運営対策など話し合い、自分たちの地域は自分たちで守るということを前提に近隣町内会とも連携した対応と取り組みをお願いします。

■詳細 総務課総務係 (☎ 23 - 2330)



当別町総務部総務課  
主査 (防災担当)  
高松 悟志

